

生物多様性保全・回復による持続的な関係づくりのための対話型デザイン

概要

2024年5月より、伊豆大島を研究地域とした「生物多様性の保全・回復による持続的な関係づくりの対話型デザイン」に関する共同研究を開始しました。

本研究は、COP15で採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」と、環境省の「2030年までに陸海域の30%以上を保全地域にする」目標が背景にあります。日本では、2023年から民間企業や団体による「自然共生サイト認定エリア（OECM）」の認定が始まりました。

自然共生エリアの増加には制度整備だけでなく、住民、自治体、企業など多様なステークホルダーの協働と日常的な実践が不可欠です。そこで、「生物多様性の保全・回復による持続的な関係づくりのための対話型デザイン」をテーマに設定。生物多様性の価値理解促進、共存を可能にする企画立案、実施ノウハウと事例蓄積など、デザイン実践を通じた知識創造を研究範囲として共同研究を進めています。

2024年度は自然の美しさを再発見するためのデザイン言語開発、島内の素材を利活用するためのエコシステムデザイン、害獣の食肉化を通じて自然との関係を見直す食文化デザインなど、合わせて5つのプロジェクトユニットで研究で推進し、現地ラウンドテーブルディスカッション（2024年10月）、「ICHIGAYA INNOVATION DAYS」でのコンセプト展示（2024年11月）を経て、現地での最終報告会（2025年2月）を実施しました。

基本情報

担当教員学科 クリエイティブイノベーション学科、空間演出デザイン学科	参加学生の人数 12名 *2024年度
担当教員氏名 丸山幸伸、五十嵐久枝	連携先など関係者の人数について 9名 *2024年度
プロジェクト実施期間 2024年4月～	参加学生の学年 学部2年生～4年生、大学院1年生
プロジェクトの実施拠点 Izu-Oshima Co-Working Lab WELAGO（ウェラゴ）	主な連携先について 株式会社フロンティアコンサルティング
参加学生の学科 クリエイティブリーダーシップコース（大学院）クリエイティブイノベーション学科、空間演出デザイン学科	

プロジェクト全体の関係図

